



# クリーンラーチ挿し木苗の増産技術の開発

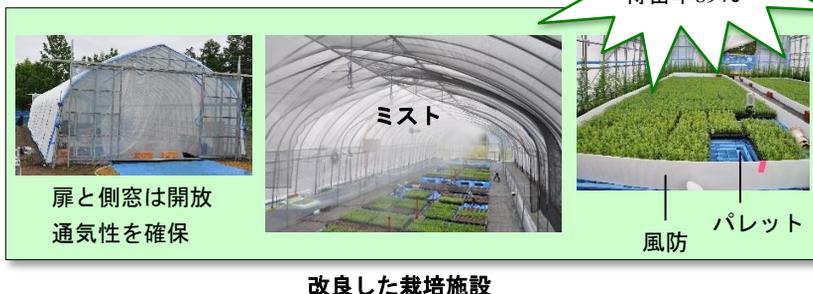
林業試験場 保護種苗部 育種育苗グループ 今 博計

## 研究の背景・目的

クリーンラーチの苗木生産は、種子生産量が少ないため、挿し木により生産されていますが、挿し木ハウスでの栽培管理の難しさや、発根した幼苗の移植後の成績の悪さが原因で、得苗率が20~30%、生産本数が15万本に低迷していました（2018年時点）。本研究では、挿し木苗生産の成績を向上させるため、林業試験場は北方建築総合研究所と共同で、温熱環境を改善する挿し木ハウスの開発、農業用セルトレイを使用した新たな育苗体系の開発を行ってきました。

## 研究の内容・成果

### 1 温熱環境を改善する挿し木ハウスの提案と管理手法の開発



#### ●失敗する原因を解明

1. 飽差※ $>9.2\text{g}/\text{m}^3$ で萎れが発生
  2. 過度な遮光（光合成の低下、カビ発生）
- ※飽差：飽和水蒸気圧と水蒸気圧との差

#### ●改良ポイント

- ・ 飽差が $9.2\text{g}/\text{m}^3$ 以下になるようミストを噴霧（5秒/3分間）
- ・ 遮光率を75%に調整（苗の成長、気温・培土温度から決定）
- ・ 外気を取り入れ気温上昇を緩和、ただし挿し床には風防を設置

### 2 農業用セルトレイを使用した新たな育苗体系の開発



野菜用移植機が  
利用可能



土付きのため移植ダメージ緩和  
野菜用移植機の利用により作業  
も軽労化



育成2年目の  
得苗率70~80%



これらの成果の普及により、得苗率が55%、生産本数が52万本まで向上しました（2022年時点）。

## 今後の展開

- ・ 得苗率の向上で苗木本数のさらなる増加、生産規模の拡大、新規生産者の参入が期待されます。
- ・ 道水産林務部主催の「クリーンラーチ挿し木技術向上研修会」で成果の普及を行います。